

第3回 長崎港元船地区整備構想検討会議 会議録

日時:令和6年1月23日(火)16時~

場所:大波止ビル7階会議室

○【議 事】

- 1.長崎港元船地区整備構想(案)について
 - 1) 前回までの会議結果のまとめ
 - 2) 観光・交流機能の方向性と具体イメージ
 - 3) イメージパース図
 - 4) 官民連携事業手法の導入および実現までのステップ
- 2.整備構想策定までのスケジュールについて

○【閉 会】

【配布資料】

資料1 出席者名簿

資料2 配席図

資料3 長崎港元船地区整備構想(案)

資料4 整備構想策定までのスケジュール

参考資料1 施設配置計画と整備イメージ

参考資料2 民間事業者サウンディング結果概要

【会議結果】

- 長崎港元船地区整備構想(案)については、概ね問題なく、承認。
- 1月末からパブリックコメントを行い、本日の意見などを踏まえ、事務局修正のうえ、3月に最終案について意見照会を実施し、3月末の「長崎港元船地区整備構想」策定・公表に向け、進める。

【委員意見要旨】

- 元船地区に來訪する方にとって、十分な駐車場を確保するようにしてほしい。駐車場については、連携が必要な、大型クルーズ船の乗客や修学旅行生が來訪できるよう大型バス用のスペースを確保することが重要。
- 修学旅行生や MICE 利用者など大人数で利用できるような場所やコト体験が可能となるような場所が、土日だけの賑わいではなく、平日の賑わいにも繋がる。
- 長崎の最大の売りは、日本で一番多い漁獲の種類とそれを生かした海産物。それらを対外的に売っていかねばならない。その際には、ホテルと連携し、朝早くから、市場の海鮮丼や刺身定食などを食べることが可能なように、宿泊型観光に結びつくような取組みが必要。
- 長崎駅との近さを利点とし、人を回遊させ、長崎駅利用者の隙間時間を元船地区でも使えるような空間になればいい。また、出島は人気の観光スポットであり、多くの観光客が訪れるため、出島と元船をいかに連動させていくかも重要。
- ターゲットとなる人々の動き方というのを想定し、歩くこと前提ではなく、バスも含め、全体として周遊性を高めていく必要がある。そのためにも、自然な流れとして、どこに人や車が集まるのか、寄せていくのかを分析していく必要がある。
- 路面電車やバスを上手く活用し、人を引き込む仕組みを作っていく必要があり、長崎市としても複合的な動線の仕方を実現に向けて、取り組んでいく。
- 元船地区では、離島との継続的な物資輸送体制を構築していく必要がある。その機能として、施設性能や広さなど、交通容量や動線の確保を検討していく必要がある。
- 立派な施設を窓口の点在、告知不足にならない運用とし、県民も県外者も含め、利用しやすい空間としていくかが重要。

○主催者挨拶(長崎県副知事)

- ・元船地区の整備構想検討については、反響も大きく、他県・市も視察や意見交換として本県を訪れるなど、県内を超えた注目となってきている。本構想を通じて、ベイエリアの開発やまちなかとも連動し、選ばれるみなとまち長崎にしていく必要があると、あらためて実感している。
- ・本日は、幹事会や関係者等で議論してきた、「観光・交流機能の方向性と具体イメージ」や「イメージパース図」等について、意見を頂いたうえで、整備構想(案)のとりまとめ状況について審議頂きたい。
- ・本検討会議も最終局面を迎えており、今年3月の本構想策定が元船地区の一層の発展だけでなく、本県の発展に繋がる第1歩になっていくと考えている。

~~~~以下、議事に関する発言内容~~~~

## ○資料3 長崎港元船地区整備構想(案)

### 1) 前回までの会議結果のまとめ

#### (委員)

- ・今回の開発によっては、駐車場も重要となってくる。元船地区に来訪する方にとって、十分な駐車場を確保するようにしてほしい。

#### (委員)

- ・DX といった技術革新的なものや、地震など災害への備えについても、整備のポイントなどで記載して、今後の社会情勢の変化に対応できるものにした方がよい。

#### (委員)

- ・松が枝地区の2バス化事業などを始めとした、周辺開発との連携や移動の円滑性に関する記載を序盤に盛り込んだ方がよい。

### 2) 観光・交流機能の方向性と具体イメージ

#### (委員)

- ・これまでの検討会議での要望や意見がよく反映されており、異論ない。協会としても実現できるように協力していきたい。
- ・記載にあるとおり、長崎県の地場商品を使った形で、修学旅行生や MICE 利用者などが大人数で利用できるような場所やコト体験が可能となるような場所を提供できた方がよい。この対応が、土日だけの賑わいではなく、平日の賑わいにも繋がる。

#### (委員)

- ・食との連携は重要。そのためにも、大型クルーズ船の乗客や修学旅行生が来訪できるような大型バスが停車できるスペースを確保することが重要。

#### (委員)

- ・長崎市の観光に関する戦略と方向性が一致する。にぎわいを取り込んだ形での「長崎の海の玄関口」を形成していくことがよい。

- ・この元船地区の開発と周辺エリアをいかに回遊させていくか。特に長崎駅周辺。そのためにも各々が魅力を高めていって、相乗効果に繋げていかなければならない。
- ・長崎駅との近さを利点とし、長崎駅利用者の隙間時間を元船地区でも使えるような空間になればいい。

#### (委員)

- ・これまでの議論した意向が組み込まれており、異論ない。評価したい。
- ・窓口の点在、告知不足など、せっきくの施設が上手く運用できない場合も多々ある。そのようなことがないように、いかに運用しやすく、県民も県外者も含め、利用しやすい空間としていくかが重要。

#### (委員)

- ・雨天時の船舶の乗降への対応など、イメージパス図で屋根を記載するなど、これまでの議論した意向が組み込まれており、異論ない。
- ・雨天時の対応の必要性については、前段の文章の中でも組み込む方がよい。

#### (委員)

- ・観光客目線でいくと、軍艦島クルーズは集約した方がよい。
- ・出島は人気の観光スポットであり、多くの観光客が訪れる。その出島と元船をいかに連動させていくかが重要。
- ・ターゲットとなる人々の動き方というのを想定しながら、ボトルネックになることが想定されるポイントに必要な機能配置を行い、歩くこと前提ではなく、バスも含め、全体として周遊性を高めていく必要がある。自然な流れとして、どこに人や車が集まるのかを分析していく必要がある。現在のイメージパスを見ると、プラタナス広場から B ゾーンの賑わい施設の結節部の滞留空間が少なく、ボトルネックになるのではないかと心配がある。

#### (委員)

- ・イメージパスでは、屋上の緑化や長崎港の視点場の形成への意識が強く、非常に楽しさを感じさせる出来となっている。
- ・バス利用者、公共交通利用者、徒歩移動者、それぞれの来訪手段別にどのルートで、どのように人を流し、寄せていくのかの検討を今後していくとよい。

### 4) 官民連携事業手法の導入および実現までのステップ

#### (委員)

- ・施設配置は問題なく、いいものができそうだなとの期待がある。
- ・長崎の最大の売りは、日本で一番多い漁獲の種類とそれを生かした海産物。それらを対外的に売っていかなければならない。札幌の二条市場はよい事例。そこは、ホテルと連携し、宿泊者には、ホテル内朝食を提供しない代わりに、一定金額の食事券を配布し、朝早くから、市場の海鮮丼や刺身定食などを食べることができる。このように、元船地区も、宿泊型観光に結びつくような取組みになればよいと思う。

**(委員)**

・P2Iのステップに関し、グラフがPFI事業だけ部分供用するように感じるので、そうでなければ、従来手法での公共整備の部分についても、部分供用するような見せ方に修正した方がよい。

**(委員)**

- ・定期フェリーの運航の継続性や、荷役活動の効率化など、とても作業がしやすい空間に生まれ変わると思い、よい構想だと思う。
- ・施設の屋上緑化など、これまで元船地区に少なかった緑を多く配置しており、ウォーターフロントとして非常に魅力ある施設になると思っている。

**(委員)**

- ・にぎわい施設のあり方について、特定の方を囲い込むようなことにはならない配慮や、夜景への配慮に関し、非常にありがたい。
- ・長崎駅から元船地区までの動線については、歩くだけでは不十分なので、路面電車やバスを上手く活用し、人を引き込む仕組みを作っていかなければならない。市としても複合的な動線の仕方を実現に向けて、取り組んでいく必要があると考えている。
- ・その中でも、長崎駅からの歩行者動線については、強化していく内容を上位計画に位置付けていく予定。

**(委員)**

・緊急物資の輸送体制は小ヶ倉柳地区に確保しているものの、元船地区では、離島との継続的な物資輸送体制を構築していく必要があるため、その機能として、施設性能や広さなどを今後の検討の中で考慮していく必要がある。また、交通容量や動線の確保という面で、交通対策を検討していく必要がある。

**(委員)**

・元船地区は、五島列島との繋がりも強い。そのため、離島の方の利便性の向上にもう少し意識を向けてもよいと思う。

以上